

事務 事業名	コード1	15500	つどいの広場事業	課	子育て支援課				
	コード2			所属班	子育て支援班				
			☐ 主要事業	電話番号	(62)8012	内線	161		
施策 体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	予算 科目	会計		款	項	目
	施策	3	児童福祉・子育て支援の充実	根拠 法令	一般会計		3	3	1
	施策の展開	1	子育て支援体制の充実						
	基本事業	142	つどいの広場事業						
				千葉県安心子ども基金管理運営要領(財源) 旭市つどいの広場事業実施要綱					

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 18 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	国の地域子育て支援事業(ひろば型)として、子育て支援センター内でつどいの広場(ハニカム)を運営することにより、乳幼児を持つ保護者の子育てを支援し、乳幼児の心身の健全な発育を促進する。(対象児童⇒乳幼児:0～3歳未満児) (事業内容) ・乳幼児が自由に遊べる場の提供 ・乳幼児を持つ保護者同士の交流及び学習機会の提供 ・子育てについての情報提供 ・子育てについての相談 など H25まで(実施体制)保育士(正規:子育て支援センターと兼務 2名、臨時職員 2名) H26から (実施体制)保育士(正規:子育て支援センター正規保育士兼務 1名、臨時職員1名) 事務事業の見直しにより職員を削減した。 【業務の流れ】 (随時) 子育て相談(電話、窓口等)⇒相談内容により子育てに関する情報を提供する。 (定期) 乳幼児の対象(0歳児・1歳児・2歳児)を絞り、年齢にあった児童の子育て講習会を開催している。 絵本の読み聞かせ会を実施し、乳幼児の情操教育等を養っている。

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.賃金等	3,090 臨時保育士2名分
2.消耗品	99 事業活動用消耗品購入
3.備品購入費	296 保育用備品購入(H18年度以来の買い替え)による増
4.建物等借上料	1,743 南分館2階借上料
5.その他	83 保険料・手数料(クリーニング代)
【前年度比増減理由】保育用備品費の増【歳入】子育て安心応援事業費補助金2,180千円	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
(毎週)月曜日～金曜日	
(開設時間)10時00分～16時00分(6時間)	
(延べ業務時間)1時間/日×20日/月×12か月	

	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
事業費	1.賃金等	千円 2,999	3,186	3,090	2,491
	2.消耗品	千円 100	148	99	100
	3.備品購入費	千円 0	100	296	300
	4.建物等借上料	千円 1,743	1,743	1,743	1,794
	5.その他	千円 76	89	83	87
事業費計(A)		千円 4,918	5,266	5,311	4,772
うち一般財源		千円 2,472	2,633	3,131	2,592
人件費	正規職員従事人数	人 0.12	0.12	0.12	1.00
	延べ業務時間	時間 240	240	240	2,015
	人件費計(B)	千円 912	912	912	7,657
トータルコスト(A)+(B)		千円 5,830	6,178	6,223	12,429

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) ・週5日開設(月～金) ① 定期的な子育て講座の実施 ② 子育てサークルの運営助言 など 26年度計画(26年度に計画している主な活動) ・週5日開設(月～金) ① 定期的な子育て講座の実施 ② 子育てサークルの運営助言 など	ア 定期子育て講座等の実施回数 イ 正規保育士配置数 (臨時保育士配置数) ウ 開設日数	回 人 日	8 0 (2) 243	11 0 (2) 245	12 0 (2) 244	12 1 (1) 245
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	0～3歳未満児の保護者 (主に子育て経験がない乳幼児が生まれたばかりのママなど)	ア 0～3歳未満児の保護者数 (0～3歳未満児がいる世帯数)	人	1,452	1,408	1,400	1,400
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	子育て経験のない新米ママなどが集い、相談できる場を提供することで、安心して子育てできる子育て力を向上させる。	ア 延べ利用者数(保護者) () イ 相談件数 ()	人 件	4,322 581	4,831 225	5,598 224	5,600 230
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	子育て家庭が安心して産み育てることができる環境づくりに努め、地域全体で子育て支援ができる仕組みづくりを形成することで、出生数の増につなげる。	ア 出生数 イ 児童福祉・子育て支援の充実に対する満足度 後期基本計画(P61)	人 %	519 H22 39.0	542 -	496 -	500 -

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
(核家族化や少子化が進む中で) ・養育している保護者が、支援の必要性を訴えている。 ・家庭を支えていた地域の子育て力が低下している。 ・保育所にも幼稚園にも所属していない子どもが多い。	H23年度に正職員の保育士を配置し、利用者ニーズを踏まえた講座等活動内容の大幅な見直しを行った。 H27年度からスタートする「子ども・子育て支援新制度」では、地域子ども・子育て支援事業として位置づけられ、本事業の重要性がより増した(補助基準額も大幅に増額された)。	(保護者からの声 / 平成25年度ニーズ調査より) ・気軽に子育て相談ができる場所がほしい。 ・市で、子育てについて情報を一元化しているところほしい。 ・家庭で子育てをしていると社会から孤立していると思う。同じようなママもいるはず。 など

事務事業名	つどいの広場事業	課名	子育て支援課	班名	子育て支援班
-------	----------	----	--------	----	--------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象者については、乳幼児(0～3歳未満児)の保護者が対象であり、適切である。意図についても、乳幼児の遊び場を提供しながら、子育てについて相談ができる体制であり、また、保護者同士の交流を促進するものでもあるため、子育てに対する不安を解消し、安心して子育てできる環境をつくることとなるため、適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 行政(市)が直営することにより、中立・公正な立場で、多種・多様な子育て相談を受けることもでき、子育て世帯が利用しやすい広場となっている。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 ・土曜日の開設により成果がより向上余地がある。 ・併設する(市直営)旭市子育て支援センターと統廃合することで、より効率的に向上する余地がある。 ・利用者数の増加が見込まれる。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やし、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 ①現状の開設日(月～金)に加え、土曜日に開設する。②私立保育園が設置する子育て支援センターと連携を図ることで、よりきめ細やかで地域性にも配慮した子育て支援活動の展開が図れる。③子ども・子育て支援新制度により創設される利用者支援事業を実施することで、子育て世帯に、より多くの情報提供や相談業務を実施することができる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(旭市子育て支援センター事業) (2) ☒ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 同所で実施する「旭市子育て支援センター」と「つどいの広場」を統廃合することで、より量・質とも向上する余地することができ、事業費も適正化できる。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 類似する旭市子育て支援センターと統廃合することで、経費削減や効率化ができる。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 類似する「旭市子育て支援センター」と人件費を実質的に統廃合を行ったばかりである。(平成26年4月実施)
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 制度上、住民からの利用者負担はない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果			(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	少子化・核家族化が進む中で、子育てに悩みを抱える母親や障害を持つ家庭への支援は、より重要性を増している。一方で、類似する事業(旭市子育て支援センター)と統廃合することで、効率的な運営や子育て支援を実施することができる。
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
☒ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:旭市子育て支援センター事業) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化		
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？		
いつまでに	なにを、どうするのか？	
平成27年3月まで	旭市子育て支援センターと事業を統廃合した上で、① 現状の開設日(月～金)に加え、土曜日の開設を検討する。② 私立保育園が設置する子育て支援センターと連携を検討する。③ 子ども・子育て支援新制度により創設される利用者支援事業を実施する。	
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		
平成27年4月からスタートする子ども・子育て支援新制度下で、利用者のニーズ(声)を聞きながら、質・量ともに充実を図って行く。		